

新製品 — ES830 ラピッドプロトタイピング モジュール

ES800 ファミリの最新製品 ES830 ラピッドプロトタイピングモジュールは、ECU と車両電子システムの開発と妥当性確認のための強力な実験プラットフォームです。実験室内の実験であっても実車実験であっても、マルチ ECU / マルチコントローラのアプリケーションをシミュレーションモデルと組み合わせて実行することができます。最も際立った特長は、ECU 機能のラピッドプロトタイピングと、ECU に対する計測・適合を並行して実行できることです。ES830 は Intel® Core™ i5 プロセッサを搭載し、低レイテンシと低ジッタを実現しています。ES800 ファミリの特長

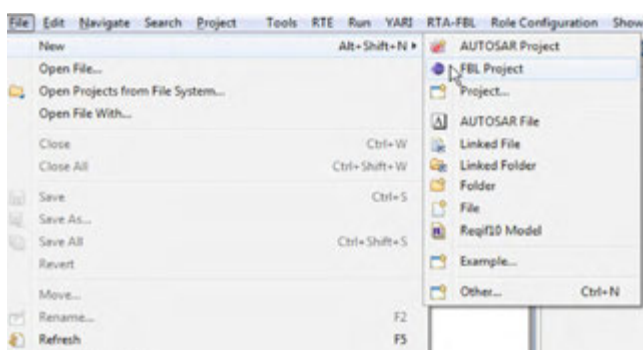
であるスタックブル構成により、システム拡張もシンプルかつセキュアに行うことができます。ES830 はさまざまなインターフェースを搭載し、今日の車両だけでなく、複雑度を高める将来の車両の要件にもしっかりと備えることができます。

Info ETAS プロトタイピングソリューションの詳細については、16 ページをご覧ください。



RTA-FBL フラッシュブートローダ

ISOLAR-B に統合された RTA-FBL フラッシュブートローダは、ETAS の AUTOSAR ポートフォリオをさらに拡張し、組立ラインからリペアショップまで、あらゆる場所で ECU を再プログラムすることができます。RTA-FBL から生成されたインスタンスは、起動シーケンスを実行し、テスターと対話してリプログラミングプロトコルを導入した後、ECU に対してアプリケーションソフトウェアと適合データのフラッシュ書き込みを行います。AUTOSAR R4.x に準拠した RTA-FBL の柔軟なアーキテクチャは各種ターゲットをサポートし、OEM ごとに異なるさまざまな要件に対応できます。RTA-FBL には ETAS のエンジニアが持つノウハウが実装されているので、OEM の仕様に沿ってブートローダソフトウェアを設定しながら、速やかに独自のソリューションを構築することができます。



ISOLAR-B から起動できる RTA-FBL

戦略的な協力体制

技術革新の時代には研究機関と産業界の連携が不可欠です。大邱慶北科学技術院（DGIST : Daegu Gyeongbuk Institute of Science and Technology）と ETAS Korea は、「戦略的協業」こそが両社の進むべき道であると認識しています。

DGIST は研究機関として 2004 年に設立され、新技術分野における人材の育成に取り組んでいます。ETAS Korea との提携の目的は、AUTOSAR を中心にノウハウを共有することです。ETAS は、AUTOSAR の分野で包括的開発サイクルをカバーするソリューションを提供していますが、今後、研究開発プロジェクトに関するツールや技術的コンサルティ

ングを DGIST に提供することで、自動車 IT 分野に関わる未来のスペシャリストの育成に大きく貢献していくことになります。ETAS Korea のゼネラルマネージャー Jinhyung Kim は、こう話しています。「この協力関係は、DGIST と ETAS Korea の成長のみならず、韓国の自動車 IT の競争力強化に向けたさらなる一歩となるでしょう」。



DGIST

は、理工学分野で急成長している有力大学です。教育と研究の新たな融合を通じて優秀な人材を育成し、国家的発展に寄与することを目的としています。

